



公開討論記念インタビュー

「企業の成績表」を思考する

財務会計 高橋二郎先生

___先生のご専門はどのような分野ですか？

私の専門分野は「財務会計」です。証券市場に上場している企業は、財務諸表を作成し、社会に公表しなくてはなりません。財務諸表というのは、資金の集め方や使い方などに関する企業の成績表のことで、株主や銀行など企業に関係する様々な人々に利用されます。どのように財務諸表を作成することが利用者にとって望ましいのか、財務諸表が実際に社会で役に立っているのかなどについて研究する分野です。

___財務諸表は成績表、とのことですが、成績表は学校の先生が何らかの評価基準に従って生徒の成績表を作成しますよね。財務諸表にも評価基準があるのですか。

はい。企業会計の世界では企業が社会的なルール、つまり会計基準に従って企業の成績表を作成します。その場合の基準となるものが会計基準です。財務諸表の利用者のニーズなどの環境の変化に応じて会計基準は進化します。会計基準を分析対象として、会計基準の体系を整合的に説明・予測する概念的なモデルの構築など、様々な試みが必要になります。「財務会計」とは、そうしたことを研究する分野です。

___会計基準の体系を説明するだけでなく予測も必要になるのですか？

会計基準が変化すると企業の儲けである利益の金額、つまりは財務諸表で示される数値が変わります。企業の利益の金額が変われば、経営者のボーナス、税金、ひいては株価なども変化しますので、会計基準には経済的な影響力があるのです。

___だから予測ということも視野に入ってくるのですね？

そうです。私の場合は、もう少し根本的なところと言いますか、そもそも財務諸表が実際にどのように社会で利用されているのかを検証するために、上場企業によって公表された

財務諸表の特性を分析したり、財務諸表の数値と株価の関係を分析しています。

___先生のご担当科目は「財務会計」ですが、授業でも「財務諸表は企業の成績表です」のように分かりやすい例を取り入れてらっしゃるのでしょうか？

はい、会計を学ぶうえで多くの人は専門用語の壁にぶつかります。ですから身近な例を素材にしながら学生の皆さんイメージが付きやすい説明を心がけています。

___分かりやすい授業を心がけているということは何か目的があるのですか？

私の場合はモデル思考を重視しています。



___モデル思考、ですか。

はい、単純な概念の組み合わせで現象を説明できるようになることです。少数の基礎的な概念で会計基準を捉えることは、膨大な量の会計基準やその変遷を学ぶために非常に有効な視点になります。

___それは授業で学んだことを社会で応用させる力を身につけるといえることですか？

そうですね。授業の最後で講義内容に関する事例問題を解いてもらい、翌週の授業で解説を行っています。これは、講義で学んだ事項を事例に当てはめる思考力・応用力の涵養を目的にしています。

___では最後に、高校生の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

名古屋市立大学経済学部には大きく2つの魅力があると思います。1つは、学びに対して柔軟なカリキュラム体制を整えていることです。例えば、専門的に学ぶ学科は2年次に選択できることやゼミは所属学科に関係なく選択できることなどがあげられます。2つ目は、その学びについてアットホームな雰囲気のもと少人数できめ細やかに指導していることです。オープンキャンパスでは、名古屋市立大学経済学部独自の雰囲気を感じ取ってもらえればと思います。